

被災者支援センター・エマオ 放射能問題支援対策室・いずみ の働きを続けるための支援 のお願い

2016年12月

日本基督教団東北教区 常置委員会
教会救援復興委員会

主の御名を賛美します。

東日本大震災発生より5年半以上、被災地を覚えてのお祈り・お支えに深く感謝します。

当教区は、震災発生直後から「被災者支援センター・エマオ」を、また2013年10月から「放射能問題支援対策室・いずみ」を発足させ、微力ながらなし得るわざに向かってきました。

これらの働きに全国の諸教会・諸教区・教団、さらには海外の教会からも、多くの協力と支援が与えられてきました。その内、昨年よりお願いしてきました「東日本大震災救援を続けるための募金B-エマオ・いずみの働きを続けるために」には、264件合計5,515,000円が捧げられ、励まされています。

教団は2017年3月末をもって救援対策本部を解散しますが、東北教区としては「被災者支援センター・エマオ」「放射能問題支援対策室・いずみ」の働きを、その規模は縮小しつつも2019年3月までを目指して継続することを教区総会で決定しました。石巻市をはじめ沿岸地域の仮設住宅はなお数年存続の見込みであり、放射能による健康被害はより心配される段階に入ります。宣教地のこうした状況に向かいあうことが、東北の教区・諸教会に主から託された働きであると考えています。

2016年度比でエマオ78%減・いずみ43%減の予算を組んでいますが、それでも単年度計2600万円が必要です。教区としても努力し、教団からも支援が約されていますが、当教区常置委員会はこの募金をもう一期お願いすることが必要だと判断しました。熊本・大分地震の課題も大きく心苦しいのですが、震災に向き合う課題の共有や協力をもって互いに力を合わせていきたいと考えています。

どうぞご理解・ご協力をくださり、お支えくださいますようお願いいたします。

期 間	2017年10月末日まで
目 標 額	特に定めません
献金の使途	「東北教区東日本大震災教会救援特別会計」に繰り入れ、エマオ・いずみの働きの資金に充当します
振 込 口 座	郵便振替 02220-5-137681 「日本基督教団東北教区」 ・同封の振替用紙をご利用ください ・同じ口座で、「東日本大震災救援を続けるための募金A： 会堂・牧師館再建復興貸付金を受けた教会の返済支援の ために」も募っています。 どちらにお捧げかご記入願います
問い合わせ	東北教区事務所 ・980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 ・TEL 022-222-0998 ・FAX 022-222-0996

放射能問題支援対策室・いずみ

「東北教区放射能問題支援対策室・いずみ」は2013年10月に発足しました。皆さまからの暖かい支援のもと、多岐にわたる広がりを見せています。心から感謝します。

いずみの活動の第一は甲状腺エコー検査です。2016年10月末現在までに32回、1736名の方が受診しています。チェルノブイリの事例によれば、事故5年後から小児がんなどの発症が急増していますので、今後の推移を心配しています。いずみではそのことも踏まえ、検査にメンタルケア・スタッフにも加わっていただいています。

また、震災以来大阪教区が派遣して下さっている山崎知行医師による健康相談が継続されています。チェルノブイリにも関わり続けてこられた経験からの深い知識と見識に基づき、不安を抱えた方々に安心を届けてくださっています。

二つ目の活動は保養プログラムです。春は沖縄(2016年は奄美)、夏は北海道という形で10回続けてきました。今後は年1回のペースでの実現を目指し、知恵と思いを集めているところです。また、これまで教団が実施してきた「こひつじキャンプ」を2017年度いずみが引き受けて実施すべく、準備を進めています。短い保養であっても、高い放射線量の場から離れての活動で、心身ともに健康を取り戻すことが期待されます。

三つ目は傾聴と訪問。全村避難を余儀なくされた葛尾村は今年6月に避難解除されました。が、これまで避難していた仮設住宅を出なければなりませんし、自主避難者に対する保障金も2017年3月で打ち切りになります。現実には葛尾村に帰る人は1割くらいの見込みです。いずみは、これまでのつながりを大切に、これからも訪問を続けます。

いずみは少なくとも10年間の活動が必要だろうと考えています。この活動を進めていくために、ぜひ皆さんのお力を貸してください。多くの人にいずみを知っていただきたいと願っています。各地域・教会での活動報告をさせていただきます。今後のご支援よろしく願いいたします。



被災者支援センター・エマオ

被災地では、心の課題の顕在化、地域・仮設コミュニティ離散による孤立化など、ソフト面の復興はむしろまだこれからです。そのような中で、石巻市では復興公営住宅の再建などが遅れ、仮設入居期限が7年目まで一律延長されています。しかし、入居率30%を切った仮設から規模の大きな24仮設への集約が始まっています。仙台市ではプレハブ仮設の撤去が始まり、残るは借り上げ仮設となってきています。

エマオ石巻は現在8つの仮設団地に関わっています。月に一回、それぞれの仮設団地の集会所で、お茶を飲みながらおしゃべりをする「お茶っこ」やそれに加えて歌うことを楽しむ「うたっこ」、食事会やコンサートを開催しています。

エマオ仙台では、仮設支援から元仮設入居者への支援へと形を変えました。仮設を出たご高齢の方の中には、「仮設の方がよかった」と新たな孤立を抱えている方もおられます。そのような孤立を防いでいくために、新たに発足した「七郷地区仮設同窓会」と連携しつつ、お茶っこ・昼食会・お出かけなどを開催しています。

この他にも、津波被災した笹屋敷地区での子どもプログラムや気になる方たちの個別訪問を行っています。



○ 2017年度以降に向けて 「仮設の最後まで」

エマオでは「仮設の最後まで」そこに居る方々と共に歩むことをずっと願っています。石巻では2018年度末頃が応急仮設住宅の最後の時期になる見込みです。与えられた出会いとこれまで培ってきた関係性を大事にしながら、仮設に住む方たちと共に歩み続けていきます。また、仙台で起こっている移転先での孤立を防ぐための働きも続けていきます。そのために、センターの規模を大幅に縮小させつつ、細く長く無理のない形にしていきます。

これからも「お祈り」と「スローワーク」を繋げていくために、ぜひご支援をお願いいたします。